

17. 負荷心筋シンチグラフィ24時間像による心筋 viability の評価

滝 淳一 中嶋 憲一 村守 朗
 松成 一郎 分校 久志 利波 紀久
 久田 欣一 (金沢大・核)

虚血性心疾患における運動負荷心筋シンチグラフィでの心筋 viability の評価に対する精度向上のために24時間像追加の有用性について検討した。運動負荷3時間後像で再分布のない fixed defect (FD) を有する32例に対して24時間像を追加した。3時間でFDを示した症例の半数において24時間像で再分布を認め viable な心筋の存在が示唆された。21例においてはPTCA, CABG施行後にも負荷心筋シンチグラフィを施行した。24時間像で再分布を認めた9割にPTCA, CABG後にT1の明らかな集積増加を示し viability を正しく評価していたと考えられた。24時間像で再分布を示さなかったものの65%ではT1の集積増加を認めなかった。24時間像は画質的にも読影に十分耐えるものであり心筋 viability 評価の精度向上に有用であった。

18. 一側下肢エルゴメーター負荷による運動筋と非運動筋の血管抵抗比の評価(第1報): 健常者における検討

瀬戸 光 野村 邦紀 蔭山 昌成
 辻 志郎 渡辺 直人 二谷 立介
 亀井 哲也 柿下 正維 (富山医薬大・放)
 和田 攻 麻野井英次 (同・二内)

一側下肢運動負荷による運動筋群の自己調節による血管拡張と対側の非運動筋群の血管収縮の程度を検討するため、運動負荷中にTl-201を急速静注し、その分布より左右下肢の血管抵抗比を評価した。健常者(28-45歳)で右下肢のエルゴメータ負荷を行い、Tl-201静注5分後から全身シンチグラムを撮像し、全身の計数に対する各臓器および下肢筋肉の% doseを求めた。運動筋群では有意に増加し、非運動筋群では低下し、血管抵抗を反映していると考えられた。

19. 虚血性脳血管障害におけるCAG, 脳RI アンギオならびに脳血流および血液量SPECT 所有の比較検討

○仙田 宏平 嶋田 博 横山 恵太
 近藤 公維 大島 治泰 丸山 邦弘

(国立名古屋・放)

脳血管造影(CAG)が施行された虚血性脳血管障害症例について、CAG所見を脳血流量(CBF)および血液量(CBV) SPECTならびに脳RI アンギオ(RNA)所見と比較検討した。対象は脳梗塞67症例など計100例で、各検査は既報の方法で施行した。CBF比とCBV比は健常部に対する病巣部の計数比とし、他の画像所見は視覚的にスコア化して、これら半定量所見相互の相関性をStudent's t 検定した。RNAの早期灌流像はCAGの血管所見と最も強い相関を、またRNAのflip-flop灌流像はCAGの側副灌流像と有意($p < 0.001$)に相関した。これら結果は、RNAがrCBFおよびrCBV所見に脳内血行動態所見を補完することを示した。

20. ^{99m}Tc -HM-PAOを使用した三宅式記銘試験による記憶負荷脳血流シンチ

遠山 淳子 片岡 博喜 加藤 徹
 小山 一之 山名 大吾 安藤 啓一
 南部 一郎 原 眞咲 黒堅 賢二
 水谷 弘和 大場 覚 (名古屋市立大・放)
 加藤 正 濱中 淑彦 (同・精神)

^{99m}Tc -HM-PAOを使用した、三宅式記銘試験による記憶負荷脳血流シンチを正常3例、健忘症候群9例に施行し賦活部位と程度を検討した。記銘試験負荷後では、言語領野である下前頭回弁蓋部、上側頭回に賦活を認めた。左右一側、または両側が賦活され、明らかな左側優位の所見は得られなかった。前頭葉の賦活された症例が多かったが、とくに下前頭回眼窩部の賦活が多くみられ、興味ある所見と思われた。Papez回路である海馬、帯状回、視床での賦活はわずかしかなかった。今回は、軽症の健忘症例が多かったためか、正常例との差は認められなかった。安静時局所脳血流低下の見られた症例では健側がより賦活された。